

# 1. 外部評価結果報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2972300129
法人名	有限会社サンコーポレーション
事業所名	グループホームひまわり
所在地	奈良県宇陀市榛原区萩原750番地 (電話)0745-82-0010
評価機関名	特定非営利活動法人 なら高齢者・障害者権利擁護ネットワーク
所在地	奈良市内侍原町8番地 ソメカワビル202号
訪問調査日	平成21年2月23日

## 【情報提供票より】(21年 1月 18日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 7 月 1 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	14 人
利用定員数計	9 人
常勤	1 人
非常勤	13 人
常勤換算	3.9 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	40,000 円
敷 金	有( 円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有( 300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,300 円	

### (4) 利用者の概要(2月 13日現在)

利用者人数	7 名	男性	0 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	1 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 87 歳	最低 76 歳	最高 95 歳		

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	宇陀市立医院
---------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは市の中心地に近く、歩いて行けるところに市役所や商店街、ショッピングセンター、駅などがあり、便利などである。一方、事業所の前には川が流れ、対岸には森や神社が見えて、四季の変化を楽しむことができる。  
事業所は平屋のバリアフリーの建物で、同じ敷地内に小規模有料老人ホームやカルチャー教室があり、イベントなどで交流をはかっている。事業所内でも、スケッチ画教室や英会話教室などが開催されている。また、料理は品数が多く、美味しく美しく盛り付けられており、利用者の一番の楽しみである。事業所内で飼われている小型犬も、よく馴れていて利用者を和ませている。利用者が日々楽しく、本人らしさが発揮できるように職員全員で取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>①「同業者との通じた交流」においては、全国グループホーム協会の大会に参加したり、他の施設とイベント時に相互に招待するなど交流をはかっている。②「職員を育てる取り組み」においては、まだ計画的には実施されていないが、積極的に研修に参加しようという意欲が感じられる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を行って、気づいたところを職員で話し合い改善している。また、外部評価の結果も職員に報告し、改善に向けた取り組みをする予定である。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は市役所担当者、地域包括支援センター、民生委員、老人会会長、家族代表などが参加して、半年に1回開催されている。現在の事業所の様子や課題、今後の予定などを報告すると共に、意見を積極的に述べてもらって、サービスの向上に努力している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>主に面会時に、日ごろの利用者の様子を報告すると共に、「ひまわり便り」を2ヶ月に1回発行し、同時にメモ書きや写真も同封している。また、家族の意見や思いは、主に面会時に聴くようにしている。日頃から、利用者や家族が言いやすいような雰囲気づくりや信頼関係づくりに気をつけている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>管理者が地域住民であり、自治会に加入して、役員の仕事や清掃活動に参加している。利用者も、地域のお祭などに参加し、交流している。また、地元の中学校の体験学習や高等学校の介護実習の受け入れも行っている。</p>

## 2. 外部評価結果報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念として、「家庭的な環境のもとで安心と尊厳のある生活を営むことを支援する」ことが掲げられている。	○	地域密着型サービスとして、「住み慣れた地域で安心して暮らせる支援」など、地域との関係を理念の中に盛り込まれることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、職員が目につく事務所内に掲げられている。また、管理者が職員と一緒に働きながら、その理念や思いを日々の介護の中で具体的に伝えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者が地域住民で自治会に加入し、役員の仕事や清掃活動に参加している。利用者もお祭りにも参加し、交流している。地元の中学校の体験学習や高等学校の介護実習の受け入れも行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を行って、気づいたところを話し合い改善している。また、外部評価の結果も職員に報告し、改善に向けた取り組みをする予定である。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は市役所担当者、地域包括支援センター、民生委員、老人会会長、家族代表などが参加して、半年に1回開催されている。現在の事業所の様子や課題、今後の予定などを報告すると共に、意見を積極的に述べてもらって、サービスの向上に努力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所も近く、市の担当者とは現況報告だけでなく、利用者の受け入れや課題など常に連絡を取り合っており、共にサービスの向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	主に家族の面会時に、日ごろの利用者の様子や健康状態を報告している。また、「ひまわり便り」を2ヶ月に1回発行し、同時にメモ書きや写真も同封している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	主に面会時に、家族の思いを聴くようにしている。日頃から、利用者や家族が言いやすいような雰囲気づくりや信頼関係づくりに気をつけている。年数回介護相談員にも来てもらいサービスの向上に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は人間性重視で採用しており、離職は少なくなっている。やむを得ず離職する場合は、利用者に影響しないようにできるだけ配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員が研修に参加したときは、内容を他の職員に伝えるようにしている。職員が定着してきており、今後レベルアップのための計画的な研修が課題となっている。	○	職員から研修の希望も聞き、職員全体のレベルアップができるように内外の計画的な研修が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協会の大会に参加し、互いに交流を深めている。他の施設の夏祭りに参加したり、逆に来てもらったりして交流している。また、他施設より利用者の紹介を受けることもある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	なるべく見学だけでなく体験入所をしてもらい、本人や家族が納得した上で入居してもらうことにしている。他の利用者も混乱しないように、徐々に事業所の生活に馴染めるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の準備や片付け、掃除などできるところは一緒に行っている。利用者が他の人の役に立っているという思いを大切にしている。また、昔の地域の話やお手玉や数え歌、風習やしつけの話など教えてもらうことが多い。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に利用者や家族の思いを詳しく聞くようにしている。また、入居後は利用者との信頼関係をつくり、何でも言いやすい雰囲気を大切にしている。日々その人らしく暮らせるように、思いや意向の把握に努めている。	○	フェイスシートはADL中心になっており、本人の生活歴や生き甲斐、できること、したいことなどが記録できるようにして、より本人の思いや意向の把握ができる工夫が望まれる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者を中心に家族にも意見を聞き、管理者と職員が意見交換を行って、利用者本位の介護計画を作成している。利用者のその人らしさが発揮できるような、具体的な計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、介護記録をもとに職員で話し合っ、変化がある時は随時見直しを行っている。新たな計画を作成したときには、家族にも説明し了解をとっている。変化がないときは、計画を続行している。	○	できれば変化がなく介護計画を続行する場合でも、半年に一度はケアカンファレンスをして家族の思いを聴き、同意を得て署名を頂くことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同じ敷地内に小規模有料老人ホームやカルチャー教室があり、イベントなどで互いに交流を行っている。英会話、スケッチ画、書道など多彩な文化的活動を積極的に行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時にも対応してくれるかかりつけ医が、月2回往診している。その他医療機関に受診するときは、職員が送迎するようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	まだ重度化したときの方針は文章化していないが、できるだけ利用者や家族の希望が聴けるようにしている。訪問看護なども利用し、かかりつけ医ともよく相談して対応している。できれば、方針を文章化されることが望まれる。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を守ることを理念に掲げており、トイレ誘導の声掛けなど自尊心を傷つけないよう配慮している。記録や個人情報などの書類は事務所で一括管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝などは、本人のペースを大切にしている。日々の活動において、食べたいものや外出など希望が聴けるよう心がけ、本人らしさが出るようゆったりと支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を中心に、品数多く美味しい食事を提供している。盛付も美しく季節感が出るように工夫されている。食事の準備や片付けなど、できる範囲で一緒に行っている。管理者は、利用者と共に食事をし、家族的な雰囲気をつくっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に週3回入浴できるようにしているが、本人の体調や希望によって足浴をするなど柔軟に対応している。時間帯は、午前午後を使い、ゆっくり入れるように配慮している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理や掃除の手伝い、お手玉や大正琴、室内犬の世話、大衆演劇の鑑賞や遠足など、それぞれ利用者の楽しみごとをもてるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、なるべく本人の希望に沿って散歩や買い物に出かけている。また、車を使って遠足などにも出かけている。出かけられないときは、ベランダに出て日向ぼっこをするなど外気に触れるようにしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所が交通量の多い道路に面しているので、徘徊傾向のある人がいるときは玄関に鍵をかけることもある。しかし、居間からそのまま玄関横のウッドデッキに自由に出ることができるようになっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導を受け、年2回避難訓練を行っている。また、各所に消火器も設置されている。緊急時の対応マニュアルもつくられている。管理者はすぐ近くに居住しており、緊急時に駆けつけられる体制にある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	高蛋白低カロリーのバランスのよい食事を提供している。盛り付けも美しくとても美味しい食事を、ほとんど全員完食している。食事量や水分量も、毎日個人ファイルに記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には、広いテーブルのほかに、ソファやホームゴタツが置かれている。季節の花も飾られている。また、ウッドデッキがあり、気軽に外気に触れることができる。小型の室内犬がおり、利用者を和ませている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた箆笥やベッド、イスなどと共に仏壇や写真、人形などが持ち込まれ、個性的で居心地良い空間をつくっている。部屋の入り口にも、異なるデザインの表札が掲げられている。		